

2008年3月期 第1四半期 連結決算説明会

The logo for CASIO, featuring the word "CASIO" in a bold, blue, sans-serif font with a registered trademark symbol (®) to the right.

カシオ計算機株式会社

2007年8月1日

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2008年3月期 1Q実績・中間・通期決算予測

①

単位:億円

連結	08/3月期					
	第1四半期	増減率	中間期	増減率	通期	増減率
売上高	1,191	▲5.9%	3,100	+3.1%	6,500	+4.7%
営業利益 利益率	12 1.0%	▲77.7%	245 7.9%	+5.6%	530 8.2%	+10.2%
経常利益 利益率	11 0.9%	▲76.4%	225 7.3%	+10.8%	480 7.4%	+15.9%
当期利益 利益率	21 1.8%	▲20.0%	130 4.2%	+8.5%	280 4.3%	+11.3%

第1四半期売上・営業利益の概況

2006年1Q

2007年1Q

売上: 1,265億 → 1,191億 (▲75億)

◆携帯電話: ▲170億 ◆その他: +95億

2006年1Q

2007年1Q

営業利益: 55億 → 12億 (▲43億)

◆携帯電話: ▲56億

◆デバイス・その他: ▲9億

◆エレクトロニクス機器(携帯電話除く): +23億

戦略事業の展開1

③

◆デジタルカメラ

国内は堅調、海外順調に拡大、利益率も12%目指す

<第1四半期>

- ・海外販売台数→前年比+25%増
- ・ベストバイの販売も好調に推移
- ・EX-Z1050:国内、海外ともに販売好調
- ・普及価格帯のEX-Z75:海外拡大に貢献

<第2四半期~>

- ・EX-Z1200(高精細1200万画素/6月発売)の本格的寄与
- ・新製品投入:「YouTube」へのアップロードを容易にしたEX-S880、EX-Z77
投入で海外市場拡大
- ・核モデルの投入

◆電子辞書

高付加価値商品の拡大で収益性もさらに向上

<第1四半期>

- ・国内トップシェア50%超キープ
- ・高利益率(18%)を維持
- ・海外市場も着実に拡大:売上比率通期16%計画線で推移

<第2四半期~>

- ・国内:「筆順大字典」を収録した新製品投入でラインアップ強化
- ・海外:新規にフランスでの販売開始

戦略事業の展開2

④

◆時計

<第1四半期>

電波時計比率50%達成に向けて順調に推移
G-SHOCK、OCEANUSブランド力強化推進

- ・新製品OCEANUS Manta投入(世界最薄のクログラフソーラー電波ウォッチ)
- ・G-SHOCKシリーズ最高峰モデル投入(MR-Gの新製品、世界5局対応電波ソーラー)

<第2四半期~>

- ・OCEANUSを主軸に高価格帯モデル(フルメタルアナログ、5局対応)の販売拡大
- ・中国電波時計販売開始

◆携帯電話

<第1四半期>

技術に基づいた商品開発と成長戦略

- ・国内は減収減益 ・W-CDMA開発費投入
- ・海外:ベライゾン向け2号機投入(G' zOne TYPE-S/防水・耐衝撃+Bluetooth機能搭載)
→本格寄与は第2四半期より

<第2四半期~>

- ・優位性ある技術「タフネス、カメラ、画像」を駆使した新製品3モデルの本格寄与
 - W52CA:バスルームでワンセグが楽しめる防水ワンセグケータイ
 - EXILIMケータイW53CA:スタイリッシュボディに5.1メガカメラを搭載
 - W52H:高画質エンジンとIPS液晶搭載のハイパフォーマンス・ワンセグケータイ

◆カシオマイクロニクス

W-CSP投入による市場拡大

<第1四半期>

- ・COFの受注状況回復してきており、増収となったが償却費負担増やCOFの単価下落の影響で赤字となった

<第2四半期~>

- ・BUMPは期初計画どおりだが、COFの新ライン(Y5)の立ち上げが期初想定よりずれ込んだため利益を下方修正した

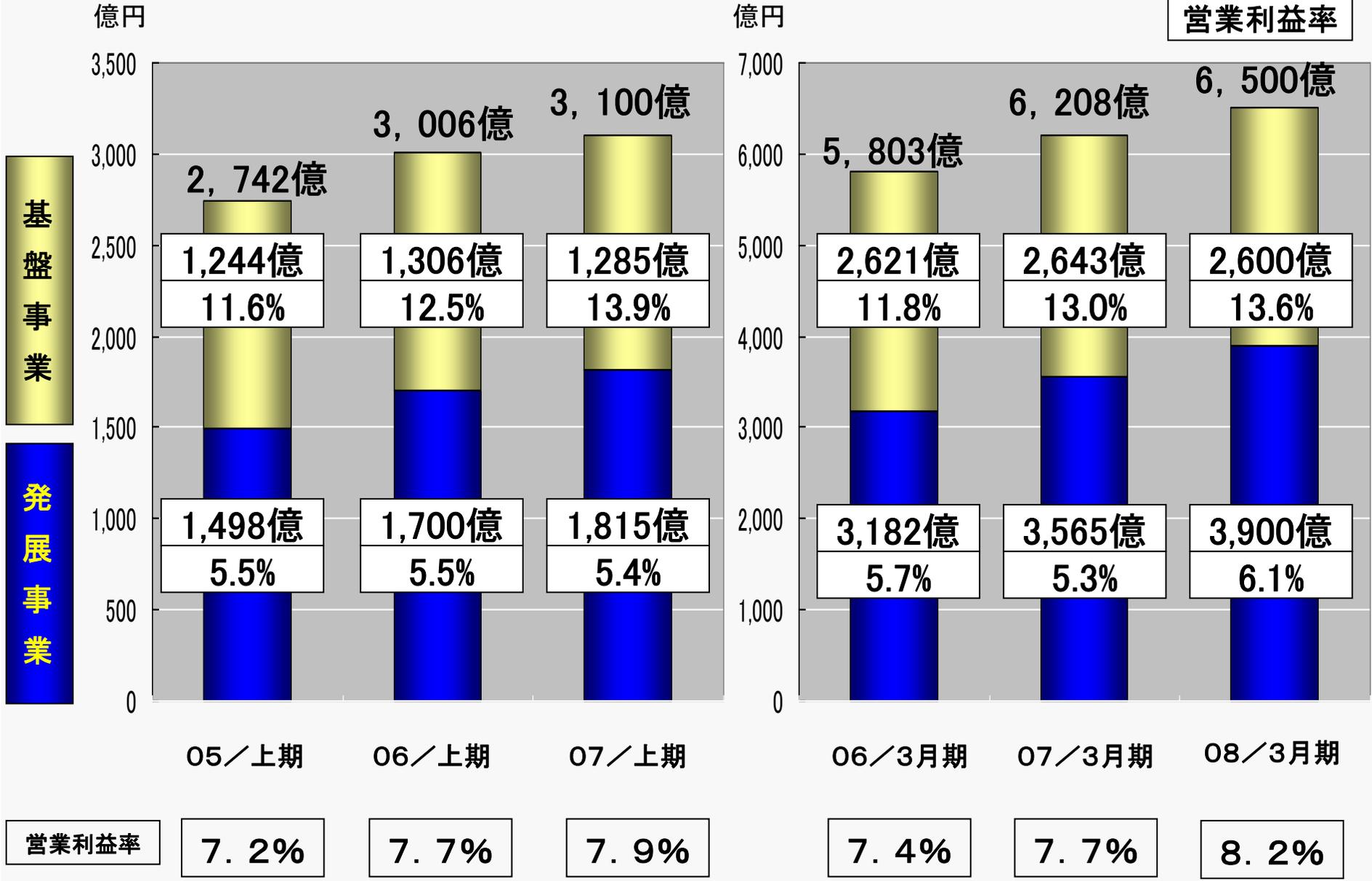
◆新規事業

- ・NTTドコモと合併で「新会社CXDネクスト」設立(2007年7月)
→電子決済関連サービスと店舗支援サービスを提供
- ・電子レジスターのトップメーカーとして様々なモデルの開発・販売で培った店舗支援におけるカシオのノウハウとケータイクレジット「iD」の展開で培った電子決済におけるドコモのノウハウを活かしてネットレジを用いた新しいビジネスを展開するとともに、カシオの電子レジスターの販売向上を狙う

基盤事業と発展事業

⑥

売上
営業利益率



セグメント別売上・営業利益

<ご参考>

単位:億円

連 結	08/3期 (52期)			
	第1四半期 実績	第2四半期	上期	通期
売上高				
コンシューマ	481	669	1,150	2,450
時計	183	217	400	800
MNS	191	659	850	1,750
情報機器	87	163	250	500
デバイス	185	115	300	700
その他	63	87	150	300
合計	1,191	1,910	3,100	6,500
営業利益				
エレクトロニクス機器	35	250	285	590
デバイス・その他	▲9	▲1	▲10	0
消去	▲14	▲16	▲30	▲60
合計	12	233	245	530

END